

一筆致啓上候、甚寒之節

（三淵）

御座候処、鍵之助様益御機嫌

能被成御座候間、御同意恐悦

奉存候、次ニ其許様弥御安全

被成御暮珍重奉存候、然者

先頃中より度々御状を以被仰越候趣

逸々致承知候、其後種々御混雜

引続候ニ付、都度々々御返状茂不

差出候、

一兼而御約束之御返金并御扶持

被下金等之義、昨辰年御収納

御請取次第奥山様御方江御廻シ

可申筈之処、其後当方民部省

御役所江数度御願立被成候得共、

追々延引一向御沙汰無之御当惑

ニ付種々御手尽之上尚又夫々

御手筋江御内々事実問合之処、

漸去月下旬ニ至り右者如何之

御手違ニ而被 仰渡候哉、一体

当正月以後朝臣被

仰付候御方々者去辰年分収納ハ

不被下候事ニ候、併御用 召ニ而

一旦被 仰渡候儀ニ付、当時伺中

ニ候得共、迎も近々之御沙汰二者

相成間敷候、然ル処御申立之趣

無禄ニ而必至と御難渋之儀御尤

ニ候間、御役所衆評之上当年収納

之内取扱近々相渡可申旨御内達

有之、誠ニ以御案外之事ニ而御当惑

思召候得共致方も無之、是迄日々

御沙汰被成御待候処、当年収納

米之内五分通り御渡被成候段先達

御達有之、漸ク一昨廿一日於御蔵

御渡ニ相成候間、先者少々御安心

被成候、跡残り之分者来春御渡

可相成由ニ候、就而者先頃中より

奥山様御方より御廻シ金之儀数度

御催促有之候得共、御約定之通り

御収納金相渡不申候而者、迺も

少々二而も御廻シ金被成兼候趣

毎度御答被懸候間、定而貴処様

方江福島氏より其段御通達之

事と奉存候、右二付昨廿日

奥山様江金子持参之处、右御同人

去月下旬御用向二而其御地江

被相越候旨御家来被申聞候間、

同人江右御廻シ金之義申談候処、

最早彼之地二而貴処様説田氏へ

談之上御用弁相成候間、御廻シ金

二不及旨答二付、左候ハ、貴処様方へ

差向可申趣申述持帰候、依而左之通、

一金三拾両　　去ル四月御立替之元金

之分

一金拾七両　　同月より御扶持被下、尤

三人扶持平均壹ヶ月

金四両貳分之相場積り

一金三両也 先達助右衛門殿出府

路用被下

右之通此度被成御下ケ被成候二付、

封込上候間、御落手可被成候、尤御扶持

方不殘御勘定之上被下度思召候

得共、前件之通御收納半渡り二而

甚以御不都合候間、追而殘之分相渡り

次第、跡御勘定之上御下ケ可被成候、

且右三拾両金利足何程ニ相成候哉

御申越次第是又御下ケ可被成候、

此度万石以下之御方々江禄制

被 仰出候二付、御知行者一同

上地二而減石高、於御蔵此方様

杯者玄米六拾五石之割御持高二

相成候、右者一般之御事故致方も

無之候得共、御当惑千万之事ニ思召候、

貴処様二者別而昨年より種々御苦心
ニ而御骨折も有之候得共、誠ニ水之
泡と相成御同様無此上も残念之
事ニ奉存候、就而者以後御暮向
御勤続等被成候二者、右減石高二
応し御省略之思召ニ付、御家来
自分共始女中共迄御減シ外何事ニ
寄らす嚴敷御儉約被成度、依而
甚御気毒二者思召候得共、貴処様
御扶持之内式人扶持御減シ、日々
尅人扶持ツ、来正月より被下候間、
左様御承知可被成候、外得御意
度儀も有之候得共、時節柄繁用
ニ付、荒々書外来春可得御意候、
以上、

十二月廿一日認

山本錦次郎

山本勢左衛門（黒印）

鈴木六太夫様

尚々寒気相凌被成候様奉存候、且御家内様へも
宜御伝声奉願候、手前一統同様申聞候、早々以上、